會社では決して調停にも和解にも應じません」と云ふなどは會社が如何に頑迷であるかを事實に物語つてゐる言葉ではありませんか。此の言葉に從へば會社がツブれようが從業員が飢え死しようが町が衰廢しようが何等困らうがそんなことはどうでもいゝと云ふ實に自棄クソな氣持がハツキリとうかゞはれるのであります。何たる無責任極まる暴言であらう。また最後の「……又爭議が濟んでから出て來るに云ふの人氣を殺者へならう。ソレ亦其の積で誰の代りの人を入れますから……」云ふなどに至つては實に其の言ふことの無茶なるに呆れかへる位だ。爭議團の夫が爭議が解決してから入場すると考へるのは大きな誤りよくの事だ。誰の代りの人を入れるなどとおどかされて其の氣になるような莫迦は大正十二年の頃の從人は死んでしまつたわい。八ケ工場の門も戸を開ても誰も來ないので泣顔してゐるクセに空威張りばかりしてゐるのが憎らしい。

兩總りに一言したいのは、奴のどうに組合の幹部が九月十四日に理事會で何うのこうのと三百代言見たいに屁理窟並べ子を出してゐるが抑々會社に勞働組合などないのに五年もかゝつて相撲するやら泥仕合の如き同志まで出し藥だ其だを濟させたものだ。証據など誰にもよく判る筈だ。他人の仙業を穿鑿するまでに自分の頭の蠅でも追つたらどうだ。

和其はこゝに會社の頑迷なることを廣く知らしむると共に序に工場課長への不筆に敢て苦言を呈する次第であります。

關東紡織聯合 蒲田支部

血迷ふた會社 遂りに

暴力行爲を獎勵

是も會社の悲鳴?

會社は本日各工場の暴力團を召集して一場の訓示を與へた。云ふところは、金は充分に出すから、今後はより以上しつかりやつて貰ひ度いといふのだが、實は爭議團の結束も堅く我が上加藤も出來ないから、持前の暴力を揮つて徹底的にやつて吳れと婉曲に命令したとのことである。

そんなこと言命令しなくとも從來彼等は屢々所々で暴行を働いたのだから、會社から獎勵されたら今後どんなことを仕出……